

2021年12月-2022年1月号 隔月刊

健 究^Q 室

vol. 16
Kenkyushitsu



「職人だね」が褒め言葉。
ものづくりサンセリテ。



誰も見てないが、手を抜かない。
普通のことを、ちゃんとやる。
サンセリテ札幌は、職人の集まりです。



大事なのは、職人のものづくり精神です。職人とは、誰も見ていなくても、絶対に手を抜けない人間のこと。はたから見たら「厳しい基準」も、職人にとっては「普通の基準」なんです。だから私たちは、自分たちの開発思想を、特別だと言いたくありません。「普通のこだわり」として、来る日も来る日も、守りぬくだけです。



「あんだ、職人だね」
サンセリテにとって
最高の褒め言葉です。

工芸品、家具、器、洋服、映画、小説。

素晴らしい作品に出会うと、心が震えます。

私たちはきっと、精緻な^{せいち}こだわり

感動しているのだと思います。

人を豊かにするのは、丁寧につくられた^まものと、

それを実現させる^まものづくりの精神^まです。

私たちも、人の心を震わせる、人の心を豊かにする

そんなものづくり職人でありたいと願っています。



職人魂

「ありがとう」の言葉に、
想いをのせたい。

「お電話ありがとうございます」では、ワンスレーズとして聞き逃してしまう。だから、「お電話、ありがとうございます」と区切ることで、想いをのせられるんじゃないかなって。自分の話し方の癖を見直したり、上手な同僚のお電話を聞いて盗んだり。日々、進化です！
お客様係 松井

職人魂

言葉選びにこだわっています。

お電話では、「耳に残る言葉」、「わかりやすい言葉」を選ぶようにしています。「はひふへほ」は聞き取りにくいから、「ご不明点」を「わかりにくい点」と言い換えたり、短い言葉を選ぶようにしたり。耳の遠い義母に伝わるように工夫をしている日常から、学びを得ているのかもしれない。
お客様係 赤塚

職人魂

プライベートは大雑把でも、
仕事はかなり細かいです。

資料の順番がバラバラになっていたら並べ直す。管理表の列や行がズレていたら、パパッと直す。誰にも気づかれないところで、こっそりと(笑)。お客様には見えないところですが、「こうしよう」と決めたことを守らないと、気になってしょうがない。きちっと守る、がポリシーです。
発送係 須藤

職人魂

これが私の、当たり前。

宛名シールを、まっすぐ貼る。テープの端を折って、はがしやすくする。箱の中の商品もまっすぐ並べて入れる。お手紙はトントンと揃える。細かいけれど、明細書に書かれた順番で商品を箱に入れたいな、とも思う。お客様が開封したときに、確認しやすいように。当たり前をやらないなんてあり得ない！
発送係 吉田

職人魂

実感値が、大事。

街でも、SNSでも、とにかくいろんな人を観察します。社内でも、美容や健康にこだわっている人を見つけたら、すぐ声をかけちゃう。「どんな風にスキンケアしているの?」「最近使ってよかったものは?」って。みんなの実感値を大事にしたいと思うんです。実感力の高いスキンケア商品をつくりたいですね。
クリエイティブ 林

職人魂

在庫管理、という奥深き世界。

お客様が「ほしい」と思ったタイミングで、商品をしっかりお届けするためには、在庫数を確認し、欠品する前に工場へ発注しなければなりません。過去のデータや傾向を分析して、いつまでに、どのくらい製造するのか予測します。データや数値では見えないところは想像力で補っています。奥深いです！
クリエイティブ 五十川

左脳派

論理的



サンセリテの職人談義

～商品開発編～

職人という、自尊心が高く頑固なイメージ。近寄りたさもあります。けれど、ものをつくる上で「自分を貫く頑固さ」は欠かせないことかもしれません。そう語るの、サンセリテ札幌で商品開発に携わる4人。周りがどうあれ、自分なりの矜持きょうじを持って、自分を貫く強さを持って、知恵を出し合い開発する。それぞれの矜持を紹介します。

右脳派

直感的



左脳派

職人・矢内の矜持やない

経験と絆が武器

どんな素材で、どのように製造して、いつまでに納品して、いくらで売なのか。原価を算出して、製造計画を組み立てるのが僕の役割です。原料メーカー、製造工場、容器メーカー、段ボールメーカー。各分野の関係者とやりとりするので、その分、落とし穴もたくさん。計画通りに進まないことがなんと多いことか。一通り経験した今は、これまで「半年」かかっていた製造工程を「2ヶ月」まで短縮できた！良いものをいかに早くお求めやすくつくるか。経験と関係会社との絆で突破していきます。

原価計算、一回もしたことありません。「この成分を商品化したい！」とアイデアだけ投げて、あとはぜんぶ矢任せ。半分は賛成されるけど、半分は「不可能です」と反対される。「それを可能にするのがあなたの仕事でしょ」ってね。「発売まで3ヶ月もかかるの!？」なんて文句も言うから、矢内は内心「クソー！」と燃えているでしょうね。

by 社長 陽子



右脳派

職人・社長 陽子の矜持

波風を立てる

チームで仲良くものづくりしている状態は、私が停滞している証拠だと思っています。みんなが袖そでを引っ張って止めにかかるくらい斬新なものを考えるのが私の仕事だと思うから。15年前につくったあるサプリメント。つくっているのは、うちともう一社だけ。その商品は流石に売れなくて、あえなく敗北しましたけど。それでも、他社にない、市場にないものをつくらなくちゃ意味がないと思っています。二番煎じじゃ、うちがやる意味がないから。波風立てる。常識を突き破る。ある意味、孤独な仕事かもしれません。

自分がつくったもの、いいと思ったものを否定されるのは怖い。でも、社長にはそれが無い。むしろ反対されようとしている(笑)。波風を立ててもいいから、「自分はこう思う」と発信して、切磋琢磨して伸びていく。人を押さえつけない社風があるのは、社長のおかげだと思います。

by 浜田



左脳派

職人・森元の矜持

成分オタク、お客様オタク

お客様の質問にしっかり答えたいという気持ちだけで、15年やってきました。お客様相談室には本当にいろんな相談がくるんです。たとえば「夫はこんな病気でこんな薬を飲んでいて…」と事細かに話して下さる。これは大変だと、原料・成分から病気・健康のことまで、必死で勉強しました。古い資料もぜんぶ残ってあって、「たしかこの辺に資料があったな」と引っ張り出しては説明しています。お客様の切実さに、確かな情報で応えたい。だからめんどくさいくらい、細くなる。みなさん、ごめんなさい(笑)。

ちょっとした質問にも、すぐに、何でも、答えてくれる。生き字引みたいな人。僕も成分の勉強をしているから、即答できる森元のすごさがわかります。森元も、僕も、勉強が好きで、知識を得ることに快感を感じるタイプ。同志として切磋琢磨しています。

by 矢内



右脳派

職人・浜田の矜持

磨かないという技術

成分についての検定があり、受験したいなと思ったんですが、ダメだ！とやめました。成分研究は、森元や矢内に任せたい。僕が成分に詳しくなり過ぎたら、お客様と距離ができてしまう。僕はお客様と同じ目線で、同じ消費行動を貫くことに決めました。「あえて成分には詳しくならない」という決断には勇気がいりました。怖かったですよ。でも、お客様のお悩みは日常の中で生まれます。「本当に求めている成分」を追求するには、「磨かない」という選択が必要だったと思います。

浜田は素人目線でものを言う。新商品を企画していたとき、「海藻、米ぬかときて、なんでカカオを入れるんですか？」と違和感を訴えてくれた。コラーゲンもヒアルロン酸もブームは過ぎたよねと話していたら「そんなことはありません！どちらもあったら嬉しい成分です！」と浜田。ハッ！とするツッコミをありがとう。

by 森元



あこがれの職人。ものづくり精神。

スタッフに緊急アンケート 「これまでに感銘を受けた職人の名言とは？」



創作者にとって、作品のメッセージが相手に通じることほど、うれしい報酬はない。 (漫画家 手塚 治虫)

自分たちの想いがつまった商品でお客様が笑顔になってくださったら。何よりもうれしいことだと、私も思います。

発送係 浅利



自分は、他の人が喜んでくれるのがうれしくて仕事をしている。それはお客さんかもしれないし、仲間かもしれないし、仕事の発注者かもしれないけど、とにかく私はまわりの人が喜んでくれるのが好きなんです。まわりの人が幸せそうになるのが自分のエネルギーなんです。

(任天堂 元社長 岩田聡)

お客様はもちろん、まわりのみんなを納得させるものをつくるんだ！という意気込みに職人魂を感じます。私も同僚たちを「あっ！」と言わせるものをつくってみたいです。

クリエイティブ 堀



デザインとは単にどう見えるか、どのように感じるかということではない。どう機能するかだ。

(Apple 創業者 スティーブ・ジョブズ)

目に見えるものがすべてじゃない。サンセリテは、お客様によって商品を必要とする目的やゴールが異なります。目に見えないところまで深く想像をめぐらせたい。

お客様係 笠原



節度を守り静かに撮らなくては、透明人間のように。

(写真家 ビル・カニンガム)

撮影する相手に愛情を持って、自分は透明人間のように黒子に徹する写真家だったそう。私も、いつも謙虚に、商品への愛情を持ち、お客様への感謝の気持ちを大切にしたい。

お客様係 安川

けんきゅうしつ

健研究室を讀んでくれたみなさんへ

ご自身の「ものづくりへのこだわり」や「職人魂」を教えてください。また、「このひとは職人だなあ。立派だなあ。」と感嘆した人の言葉なども教えてください。ホームページなどで、いつか紹介できたらと考えています。

